

【別紙様式3】

再評価実施事業調査書

| | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|--------|--------------------|--------|--------------------|------------|---------------------|------------|--------|
| 番号 | 1 | 事業名 | 道路事業 | | 路線又は箇所名等 | | 一般国道464号 北千葉道路I期 | | |
| 事業所管課 | | 道路整備課 | | 事業主体 | | 千葉県 | | | |
| 事業化年度 | 平成17年度 | 用地着手年度 | 平成17年度 | 工事着手年度 | 平成18年度 | 工事終了(認可)年度 | 令和11年度 | 再評価の理由 | 再々評価 |
| 費用便益比 B/C | 1.4 (2.6) | 総費用 | 1,299億円 (117億円) | 総便益 | 1,767億円 (309億円) | 基準年 | 令和3年度 | 供用開始 年度 | 令和12年度 |

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

一般国道464号北千葉道路は、外環道と成田空港を最短で結び、首都圏の国際競争力を強化するとともに、災害時における緊急輸送道路として機能する延長約43kmの重要な道路である。

北千葉道路I期は、北千葉道路のうち、印西市若萩から成田市押畑まで約9.8km区間を整備するもので、印西市若萩から成田市北須賀までの約4.2kmを県で、成田市北須賀から成田市押畑まで約5.6kmを国がそれぞれ事業を実施しているところである。

- ・総事業費：440億円
- ・事業延長：L=4.2km

【事業の進捗状況】（令和3年度末見込み）

| | 全体計画(億円) | 投資事業費(億円) | 残事業費(億円) | 進捗率(%) |
|----|----------|-----------|----------|--------|
| 全体 | 440 | 376 | 64 | 85% |

【社会経済情勢等】

- ・北千葉道路I期区間の暫定2車線開通に伴い、現道の国道464号の交通量が約1割減少しているが、成田市街地では依然として速度低下が生じている。
- ・北千葉道路の北須賀～船形間における交通量は、道路整備の進捗とともに増加し、令和元年11月時点では約12,400台/12h。
- ・現道の国道464号は緊急輸送道路1次路線に指定されているが、供用済み区間を除く区間については、幅員が狭くカーブが多いため、大型車両のすれ違いが困難。成田市街地では沿道に商業施設が連坦しており、事故の発生件数も多い状況。

【対応方針(案)】

継続

費用便益比(B/C)が事業全体で1.4、残事業で2.6であることから、費用対効果が見込まれる。

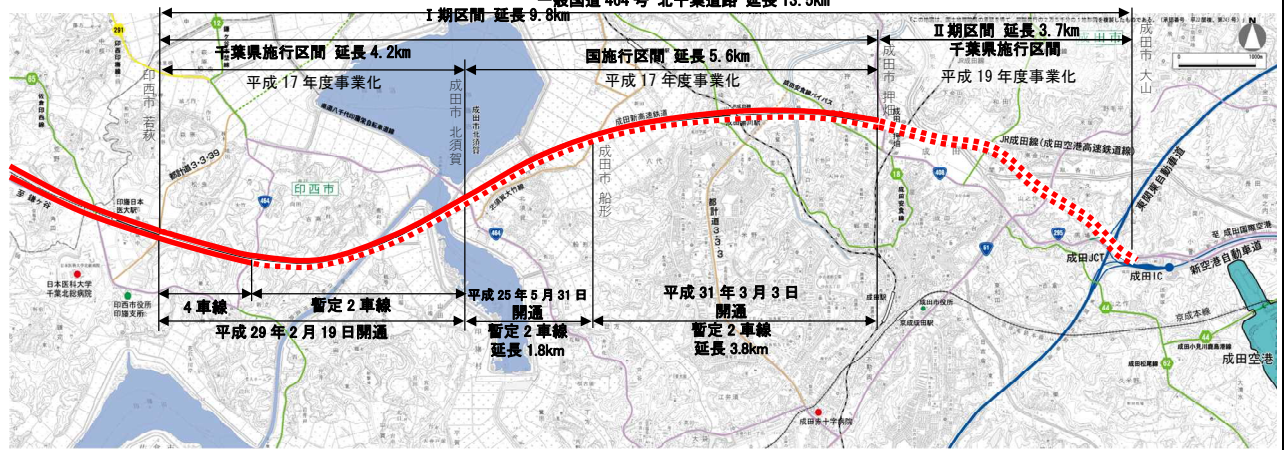
整備効果として、道路ネットワークの強化や物流の効率化の他に、医療施設へ搬送先の選択肢の拡大等による地域医療サービスの向上や、成田空港と広域防災拠点や救急救命センターを結ぶ緊急輸送道路の強化による防災機能の強化などが期待される。

事業を継続し、効果の早期発現を目指す。

事業概要図

| 番号 | 1 | 事業名 | 道路事業 | 路線又は箇所名等 | 一般国道 464 号 北千葉道路 I 期 |
|-----|---|-----|------|----------|-------------------------|
| 位置図 | | | | 標準横断面図 | |

平面図



凡例

- | | | | |
|--|-----------|--|-----------|
| | 4車線区間 | | 市役所 |
| | 2車線暫定供用区間 | | 第三次救急医療施設 |
| | 事業中区間 | | 成田空港 |
| | 高速道路 | | |
| | 一般国道 | | |
| | 主要地方道 | | |
| | 一般県道 | | |

【別紙様式 5】

再評価事業に関する調書

| | | | | | |
|---|---|-------------------------------|-------------------------------|----------|-------------------------|
| 番 号 | 1 | 事 業 名 | 道路事業 | 路線又は箇所名等 | 一般国道 464 号 北千葉道路 I 期 |
| 事業化年度 | 平成 17 年度 | 用地着手年度 | 平成 17 年度 | 工事着手年度 | 平成 18 年度 |
| 【再評価（H28 年度）の概要】 | | | | | |
| 事前評価実施年度 （基準年） | 平成 28 年度 | 供用開始年度 | 平成 42 年度 （令和 12 年度） | 対応方針 | 継続 |
| B / C | 1.1 (9.2) | 総費用 | 987 億円 (115 億円) | 総便益 | 1,071 億円 (1,055 億円) |
| <p>（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業）</p> <p>事前評価時の委員会の意見及び当時の状況 ・継続することが妥当である。</p> | | | | | |
| 再評価時の進捗状況及び再評価時想定 of 5 年後の進捗状況 | | | | | |
| | 計 画 | 進捗状況 (H28 末見込み) | 5 年後の想定進捗状況 | | |
| 全体事業費 | 440 億円 | 371.2 億円 (84%) | 375.9 億円 (85%) | | |
| 用地取得面積 | 211,282 m ² | 211,282 m ² (100%) | 211,282 m ² (100%) | | |
| 供用面積 (延長) | 4.2km | — | — | | |
| 【再々評価（R3 年度）の概要】 | | | | | |
| 再評価実施年度 （基準年） | 令和 3 年度 | 供用開始年度 | 令和 12 年度 | 対応方針 | 継続 |
| B / C | 1.4 (2.6) | 総費用 | 1,299 億円 (117 億円) | 総便益 | 1,767 億円 (309 億円) |
| <p>（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業）</p> <p>現在の進捗状況</p> | | | | | |
| | 計 画 | 進捗状況 (令和 3 年度末) | | | |
| 全体事業費 | 440 億円 | 375.9 億円 (85%) | | | |
| 用地取得面積 | 211,282 m ² | 211,282 m ² (100%) | | | |
| 供用面積 (延長) | 4.2km | — | | | |
| 再評価後の経過及び処理状況 | <ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度 再評価(継続が妥当である) 引き続き、事業の早期完了を目指す。 | | | | |